



※ 6日間の延長により、「延べ43日間」となった今年の夏休み期間中に、子ども達が少しでも“夏”を楽しめる体験をすることができたり、何かに“挑戦”する機会をもてたりしていることを願いつつ、この原稿を作成しています。

「夏休みの延長」を経て、「三日間の午前中授業」からスタートする、2学期

緊急的な措置を講じ、本当に“異例な形”での学校再開となりました。保護者の皆様におかれましては、今後の情勢や学校の動向について、さぞかしご心配をされておられることではないでしょうか。

7月末くらいから徐々に増えていた市内での新規感染者数は8月に入って更に増加し、お盆時期を境に考えられないような数値に跳ね上がっています。県下全域でも、感染力が強いとされるデルタ株への置き換わりによる感染拡大が進んでいると見られ、8月20日からは岡山市・倉敷市に「まん延防止等重点措置」が、8月27日には岡山県への「緊急事態宣言」が発出されました。これを受け正に、緊急事態下での2学期始まりになってしまいました。報道等から得られる様々な情報・状況からは、残念ながら『前途多難』な見通しを想定せざるを得ないのが正直な思いです。

それでも、子ども達は学校で得られるであろう「何か」を期待しながら、毎日元気に坂の上へと通って来ます。その子達のために何ができるのか、今まで以上に慎重な協議を重ねながら2学期の教育活動を進めて参りたいと考えております。しかし、刻々と姿を変える変異株の特徴は、研究者でも未だつかみ切れてはおらず、今、最優先させるべきは『児童・保護者やご家族・地域の皆様・教職員の命と健康』であると思っています。学校行事等についての今後の判断が、児童や皆様方にとって意に沿わないものになることがあるかも知れません。判断・決定の理由や主旨の説明はできる限り丁寧に行って参りたいと思っています。どうぞ、ご理解とご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

これまで以上に徹底した、「感染防止対策」を！

『デルタ株』の脅威は、新聞やテレビで伝えられている通りで、その怖さは、今の県内・市内の感染状況からも、容易に実感することができます。感染経路不明の事例も増えてきており、「いつ・どこで・だれに」感染する・させるかが分からない状況です。

東京や大阪のような大都市で起きていることが、倉敷でも起きそうになっていると考えて、強い予防・対策意識をもち続けなければならないと思っています。自分の命(健康)や周りの人の命(健康)を守るためにも、これまで以上の徹底した感染防止対策を行っていきましょう！

- ・体調が優れないときには登校しない！(本人も家族も)
- ・会話中や飲食中の飛沫に厳重注意！
- ・手指の洗浄・消毒は常時行う！

第4・6学年 保護者の皆様へ

9月1日の参観日中止に伴い、「山の学習」と「日帰り修学旅行」の説明会も中止になっております。関係学年の児童並びに保護者の皆様には、それぞれの行事の実施可否について、ご心配をされておられることと思います。

夏休み期間中に、第4学年につきましては、国立吉備青少年自然の家との打合せを、また第6学年につきましては、旅行業者を通じて日帰り修学旅行(今年は、県内のみ:備前方面と鷲羽山で計画しています。)の計画を、それぞれ進めております。また、どちらの学年につきましても、9月初旬の感染状況に応じての延期対応の計画も立てております。

それぞれの学年の現時点での実施予定日は、4年生が10月13日、6年生が10月6日と差し迫ってきております。しかし、学校再開後の感染状況の見通しが全く立たないため、今日まで判断・決定ができていない状態です。

そこで、今週3日間と来週水曜日までの計6日間の、本校や市内各校の感染状況や、県内のコロナ関連の様子を見て、8日(水)か9日(木)に最終判断・決定をするように考えております。決定後には、各学年より「お知らせ」の文書を配布いたしますので、それまでお待ちください。ぎりぎりまで気をもませてしまいますが、宜しくお願いいたします。

*6年生の「日帰り修学旅行」につきましては、実施時期の各種割引適用の有無によっては、経費が高額になる(小遣い込みで、最高20,000円程度)ことがあります。昨年度末にお知らせしておりますが、当初予定の「関西方面修学旅行」の企画料・キャンセル料も、今年度は保護者負担になるようです。ご承知おさください。

今こそ、「旭丘小学校の全員」が一つになり、



を、発揮すべき時です。

そうすることが、「実りの秋」につながることを信じて！